



29 海野勝珉《翡翠図花瓶》

明治末期〜大正初期（二十世紀初頭）

銀、彫金、象嵌

各径二〇・〇 高三五・〇

葦の生い茂る川原に飛来する様子と、獲物を狙っているのか岩の上に静かに留まる姿、動と静二態のカワセミを高彫で表して象嵌した銀花瓶。総銀地にカワセミのみ色味の異なる金属で象嵌した控えめな作品であるが、背景の葦の繊細な彫刻や岩に見られる豪快な片切彫に作者の海野勝珉（一八四四〜一九一五）の優れた彫技がみえる。花瓶の鍛造成形は長養齋藤本萬作が担当した。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

鳥の楽園 — 多彩、多様な美の表現

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 68

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年三月二十一日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shozokan